

第3回デジタル化検討会 次第



チーバくん

1 開会

2 県からの説明

3 ワークショップ°

休憩

ワークショップ°

4 閉会

CHIBA

【2024.8月時点】プロトタイプ^oの機能案について



○プロトタイプ^oの基礎的なコンセプトは、「多様な関係者間の情報共有」や「相談記録等の作成」を行うことができるクラウド上のシステム【基本機能】

○これまでのデジタル検討会での協議で、業務フロー全体としての効果的なデジタル化を進めるためには「会議運営」「統計処理」「相談対応」を効率・円滑化できる機能の追加が必要との意見が得られた。
【+ α 機能】

第2回検討会後の現時点の想定機能（現場のニーズに基づく）※多機関協働事業を対象

■基本機能案

- ①世帯情報などを記載した共通フォーマットによる記録作成
- ② ①の情報に基づく関係機関への情報共有
- ③エコマップ、ジェノグラムの生成機能

■+ α 機能案（検討会で出されたニーズ）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ①過去事例検索機能【相談対応の円滑化】 | ②統計機能【統計処理の効率化】 |
| ③社会資源の検索、共有【相談対応の円滑化】 | ④アセスメント進捗管理【相談対応の円滑化】 |
| ⑤チャット機能【会議運営等の効率化】 | ⑥スケジュール調整【会議運営等の効率化】 等 |

基本機能+ α 機能の搭載により、①業務フロー全体の効率・円滑化、②支援機関内もしくは関係機関との調整・共有が必要なあらゆる場面で、必要に応じて、適宜情報共有を行うことのできるシステムを実現

※支援会議以外の部分は現行制度上、本人同意を取った上で共有を行う

参考 TYPES事業要件[※国募集要項から抜粋]

2. 相談記録プラットフォームのプロトタイプの開発

- 相談支援員が住民に寄り添い、きめ細やかな相談・支援を行える体制を構築するため、こども家庭、高齢、障がい、生活困窮等の福祉分野における相談支援業務や重層的支援体制整備等に共通的に活用（過去の相談記録の容易検索等）でき、多様な関係者間の情報共有を行うことができるクラウド上のシステム（以下、「相談記録プラットフォーム」という。）のプロトタイプ（以下、「プロトタイプ」という。）の開発を行うこと。

↳プロトタイプ：試作品（フォーマットも含めて整理をしながら、実際に試作品を作り、ユーザーが操作し、その使い勝手がわかるようにするもので、ユーザーの意見を反映させたもの）

- 現場の相談支援員の業務プロセスに沿ったものとするため、都道府県と市町村や関係機関が協働して、現場の相談支援員を含めた多様な関係者で構成する検討会を開催し、プロトタイプを作成すること。
- プロトタイプは、次の点を配慮したものとし、利用する相談支援員のフィードバックを得ながら、アジャイルで作成すること。
 - (1) 1のソリューションと連携することを前提として作成すること。
 - (2) 機微性の高い個人情報を取り扱うことから、適切なアクセスコントロールができるものであること。
 - (3) 他のシステムと併用すること等により、相談支援員が二重入力をする負荷を抑えたものとする。
- 今後の全国展開を行うため、当該プロトタイプは、申請団体のみが利用できるものとはせず、本事業に参加していない地方自治体及び国の利用が可能となるよう配慮すること。